

(シラバスNo.23)

科目名	教育政策特論	科目コード	17P-K4	
			21P-K3	
	科目群名	関連科目		
	Advanced Seminar on Education Policy	必修/選択	選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	寺脇 研	単位数	2	

【授業概要】

教育法規及び教育政策について教育行政の事例を中心に論究する。特に、戦後日本にとっての教育政策が、どのような教育行政組織によって行われてきたのか。また、その機能が法規上どのようなものになっているのか。中央と地方の2つのレベルからひもとき、学校教育がどのような制度的性格を持ち、それに行政がどのように関わっているかなど、教育制度や教育行政制度の理解を、関連法規から社会の変化の動向を注視し考察をするとともに、近年の研究の成果に基づいた今後の課題を論じる。

【授業の到達目標】

1. 戦後日本の教育政策について「学力」の視点から現代的な課題を把握できる。
2. 戦後日本の教育行政の展開と課題についての多角的な検討をとおして現代的な課題を把握できる。
3. 共生社会における教育の意義について理解し、共生社会のあるべき姿を描くことができ、それに資する教育政策を具体的に立案することができる。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴> (毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください)

形態	実施	具体的に実施すること
講義	◎	教員の研究成果について講義
グループワーク・質疑	◎	受講者間の議論を行うと共に、疑問がある都度で質問できる。
演習	○	課題を与え、考えさせる。
プレゼンテーション	○	考えた結果を発表する。
制作		
その他 ()		

【授業計画】

回	内容
1	「学力」に焦点を当てた戦後日本の教育政策について
2	教育法規（学習指導要領を含む）の歴史的変遷からみた「学力」観
3	「ゆとり教育」と「学力低下論」の議論の本質と課題
4	共生社会において必要な学力・能力を検討－「ゆとり教育」と「学力低下論」の議論を超えて
5	「ゆとり教育」の今日的意義を検討
6	戦後日本の学校教育制度、教育行政の展開と課題について
7	学校教育制度の変遷と課題－明治以降の「キャッチアップ型」学校教育制度を問い直す。
8	教育法規、教育行政の変遷と課題－中央、地方、学校、教師といった様々なレベルで教育の権限や裁量、責任について、その変遷を捉え、それぞれの関係や役割について再検討する。
9	共生社会における学校教育制度、教育行政の在り方についての検討－様々な「教育のかたち」を模索
10	共生社会における社会教育、民間教育事業の在り方について
11	共生社会に資する教育政策の立案、報告・討議

12	共生社会における教育の意義や役割について討議
13	共生社会のあるべき姿や具体的な政策を立案し、報告と討議を展開する。
14	これからの時代を 22 世紀まで見据えて予測し、必要とされる教育政策を考える。
15	未来への展望を前提に、どのような社会を築き上げていくか具体的に検討する。
試験	
【履修上にあたっての準備】 教科書と参考図書を読んでおいてください。	
【授業外学修（予習・復習）】 予習として、戦後教育の変遷を大筋理解しておいてください。復習は、その回の講義内容を改めて自己の中で確認すること。	
【評価方法】 「授業内で課すレポート評価」（50%）、「科目修得試験」（50%）の割合で総合して評価する。	
【教科書】 寺脇 研(2018). 危ない「道徳教科書」 宝島社 寺脇 研(2017). 国家の教育支配がすすむ 青灯社	
【参考図書】 寺脇 研・前川 喜平(2017). これからの日本、これからの教育 筑摩書房	